

明石康さん

元国連事務次長。1931年秋田県生まれ。東大卒業後、米バージニア大学院などを経て57年日本人初の国連職員に。79年に事務次長。92〜95年にカンボジアや旧ユーゴスラビアで平和維持活動などに当たった。

1943年に旧制 秋田中学に入学生活をした。

秋田中学に入学した。戦争中の価値観に代わるもの。英語は好きではなかった。軍国主義の時代で、好きになる理由がなかった。英語より「うなぎの生育地がどこか」を熱心に講義してくれた生物学の先生や世界各国の哲学の話をしてくれた修身の先生など、ユニークな教師のことを覚えている。



終戦直前に勤労奉仕で

なまりのある英語で十分

山形では蔵王の自然が印象的だった。スキーにいくと樹水の美しさが目に染みだ。途中で学制改革があり、新制に切り替わった。秋田に戻って1年浪人して、東大に入学。2年の時に初めて外国人教師の講義があった。ところが授業で理解できたのは、最初の「グッドモーニング」と終わりの「グッドバイ」だけ。後は何を話しているのか全く分からなかった。

働きながらも面白いこととはやっていた。「高い所から水を落とすと気化して下はぬれない」という友達がいいた。「ならば実験しよう」と、高さ10メートルの製油塔に登って放尿した。当然気化せず、下を歩いていた人にかかってしまった。

早速、英語でのディスカッショングループを作り、友達と議論をするようにした。そのお陰か、1年後には6、7割くらい理解できるようになった。

学校では、鉄棒で大車輪をやりたくて体操部に入った。棒を握った手が滑って落下し、手首の筋を切る大けがをしたこともある。友達と公園で酒を飲んだり、生意気で反抗的な生徒だった。

今でもRとLの発音の区別には苦労する。でも、言葉は相手に自分を理解してもらおうことが大事であって、なまりのある英語で十分だ。私？ キッシンジャー氏（元米国務長官）よりも発音はいいですよ。【聞き手・澤 圭一郎】

戦後、旧制山形高校に入っ

よ。